

# 関西国際空港 豊かな藻場環境の創造



## プロジェクトの概要

- 関西国際空港は、大阪湾南東部泉州沖約5km、平均水深18～20mの海域を埋め立ててつくられた空港です。護岸の総延長24kmのうち約9割に「緩傾斜石積護岸」を採用しています。
- 広い範囲に光が届くようになること、また、空港島造成時に各種工夫を積極的に展開したことで豊かな藻場環境が生まれ、空港島周辺には藻場を中心に多種多様な生き物が生息しています。
- 現在においても良好な藻場環境の維持・拡大をめざし、モニタリング調査や母藻移植を行っています。

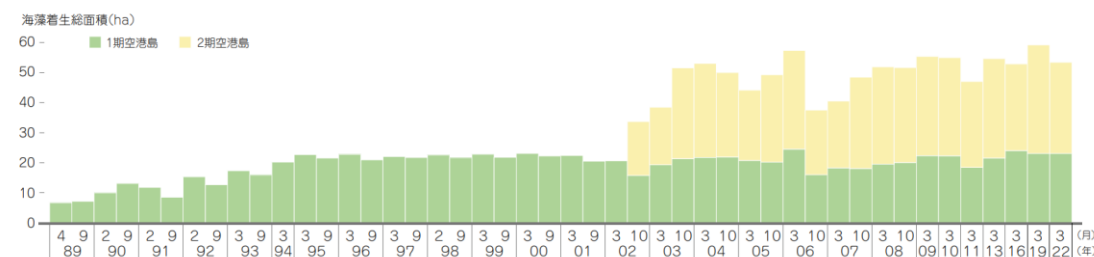


関西国際空港の全景

## プロジェクトの特徴・PRポイント

- 空港島造成から現在までの30年以上にわたり、モニタリング調査や育成を通して豊かな藻場環境を創造しています。
- モニタリング調査の結果からみられる藻場環境の変化や、消波ブロックの設置を伴う護岸工事等に対応した藻場再生にも取り組んでいます。近年では大型海藻のカジメやワカメ、ホンダワラ類等に着眼し、海藻の生活史や現場状況をふまえた母藻移植にチャレンジしています。

藻場の生育状況



カジメ



シダモクなど



ガラモ場に集まる  
メバルの幼稚魚

関西国際空港 藻場の様子



カジメ母藻



母藻の  
移植・設置



生分解性スポンジバッグ  
を用いた母藻設置

藻場再生の様子

